

目 標 に 向 か っ て 歩 く

目標に向かって歩けば、無駄足がありません。目標がなければ、あちらにぶつかり、こちらにぶつかりして、遅々として進みません。希望は毎日の生活を充実させます。人生を濃厚に味わうには、目標に向かって歩くことです。

目的が定めれば時間や行動に無駄がなくなります。今日の予定、今月の目標、一年の計画、十年先の希望と、目的に至るまでには長短がありますが、いずれも夢を育ててくれます。そのためには、ハードルは少し高めに上げた方がいいようです。高ければ努力する意欲が湧きあがり、精を出すようになるからです。

しかし、ただ闇雲に突っ走るだけではよくありません。仏教用語に、「精進」という言葉があります。この精進はただの努力ではありません。精進の精とは「選り分ける」という意味があります。玄米を精米にするときに、雑居物を払って、粃殻を取り除き、白米にします。このように、目標の照準をしっかりと択んで、それに向かって一心に励んで前進していくことが精進となります。つまり、よく考えられた計画のうえで努力することが精進です。精進の結果は、たとえ失敗したとしても、清々しい満足が得られます。

完成に向かって歩む修行が、般若心経でいうところの「ハーラ ギャテイ」です。修行に励んでいる最中は、仏さまの智慧の光明によって自分の愚かさが赫々と照らされますから、心の闇が丸見えになってきます。一つの目標に向かって精進しているときは、今までまったく考えもつかなかったような新しい知恵が授かりやすくなります。目標に進むということは、濃厚な人生を歩むということです。今日はなにもすることがないといって布団にもぐりこんでいては、なにも得られません。一生懸命に行なった末の、「果報は寝て待て」ではないでしょうか。